

桶川市議会議員

山中 敏正

やまなか

としまさ

後援会だより

Vol.32 令和8年 7月号

発行：山中敏正後援会
発行責任者：山中敏正

桶川市
マスコットキャラクター
「オケちゃん」



〒363-0027 桶川市川田谷2290-1
TEL:048-787-3796 FAX:048-782-6885
<https://www.yamanaka-toshimasa.com/>



『共に創る未来の埼玉』

～安心できるまちづくり活動宣言～

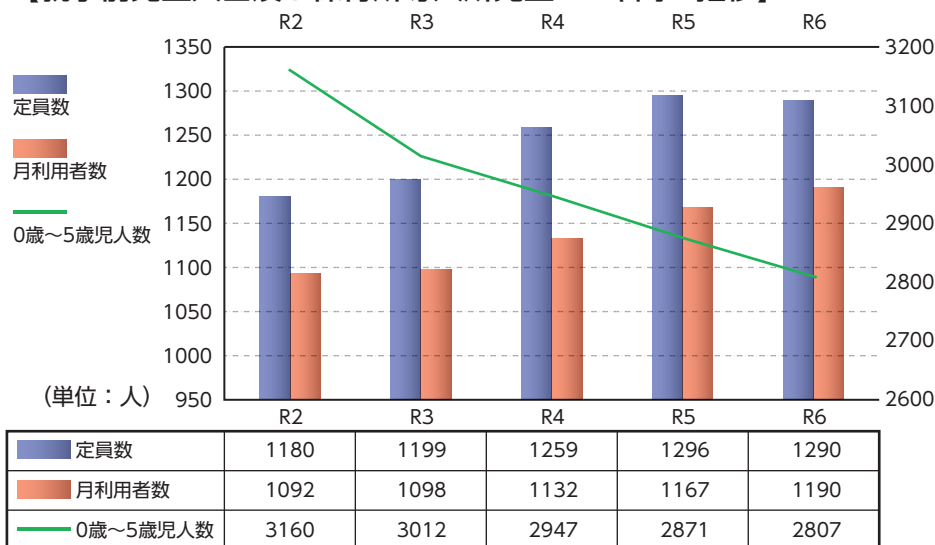
- 総務常任委員会 委員長
- 議会運営委員会
- 川島桶川資源循環組合議会

日ごとに夏の暑さが増してまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

埼玉県では「**日本一暮らしやすい埼玉**」の実現に向け待機児童対策を進めていますが、保育士の給与水準が近隣都県より低く、人材確保が困難な状況です。さらに物価高騰により県内の保育所や幼稚園等の運営が圧迫され、サービス低下も懸念されます。こどもたちの健やかな成長と「こどもまんなか社会」実現のため、保育環境の一層の整備と処遇改善は今後ますます重要となっています。

桶川市の子ども・子育ての現状

【就学前児童人口及び保育所等入所児童の5年間の推移】



■市内の認可保育施設は、20施設あります。

■0歳～5歳児のお子さんは毎年減少していますが、月の利用者は増加しておりそれに合わせて、定員数も増やしています。
定員充足率(令和6年度)：92%

■共働きが一般的になり、フルタイムで働く親が増加したことで、保育所への需要は高まっています。

【桶川市独自の施策】として

▶ 民間保育施設保育士確保事業

令和7年度より

新規採用者1人につき10万円補助

令和8年度より

▶ 私立幼稚園教諭へ支援・拡充

新規採用者1人につき10万円補助を

行っています。

埼玉県内における保育の公定価格の現状と課題

【公定価格】とは

保育の公定価格は全国一律ではなく、地域区分ごとに保育所運営に係る基準額を国が定めています。

また、市町村がどの地域区分になるかは、国が国家公務員の地域手当の級地区分に準拠して決定をしています。

現行の公定価格の地域区分		
地 域	地域手当級地区	地域区分
東京都23区	1級地	20%
さいたま市	3級地	15%
桶川市	5級地	10%
上尾市	6級地	6%
北本市	6級地	6%
鴻巣市	6級地	6%
川口市	6級地	6%

【現状と課題】

●埼玉県は物価や賃金が高い地域ですが、国が定める公定価格の地域区分は**東京23区より低く設定**されています。

●同じ首都圏でも、埼玉の保育園は東京都より公定価格による収入が少ない仕組みになっています。

●運営費収入の差が保育士の給与格差につながり、埼玉の**保育士が東京都へ流出する原因**になっています。

【保育士の処遇改善策】

近隣自治体で過度な格差が生じないよう、**公定価格を見直し**、東京都との格差及び地域の実情からのかい離を是正することが重要です。

そのうえで、都内就業者の実情も踏まえ、保育士の処遇改善を国の制度として底上げしていく必要があります。

一般質問より桶川市へ提案及び提言の成果

江川水域の水害対策について

『河川整備計画の変更内容』、『樋管改築と排水機場の整備』について伺った。

① 計画変更の経緯

令和元年東日本台風により甚大な浸水被害を受けたことから、荒川水系荒川左岸ブロック河川整備計画を変更しました。

② 整備方針の変更内容

一級河川江川において、最下流部の荒川合流点から1.3kmまでは、現況の地盤を活用する計画に変更するとともに、新たに**排水機場の設置**を位置付けました。

③ 樋管改築と排水機場の整備

宮下樋管の改築については、国が実施する荒川の堤防改修と一体的に施工することで国との協議が整っています。

▶ 宮下樋管の改築と排水機場の設置は、市民の安全な暮らしを守り、将来にわたる安心を提供するための重要なインフラ整備です。今後とも、早期完成に向けて取り組んでまいります。



2019年10月13日(日) 撮影
台風19号の影響で、江川の水位が上昇し
県道12号線、滝の宮交差点が通行止めとなる。

下水道事業のウォーター PPP について

下水道のウォーターPPPとは

- ◆ 国交省ガイドラインに沿って、老朽化対策や人材不足、財政制約の解消を目的に、下水道施設の維持管理や更新、事業マネジメントを長期包括で民間に担わせる新しい官民連携手法のことです。
- ◆ なお、ウォーターPPPは地方公共団体が従来通り責任を負い、施設の所有権を残したまま民間にその管理運営を委ねるものであり、「民営化」とは異なります。

なぜ、下水道分野で官民連携が必要？



出典：国土交通省ウェブサイト (https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000585.html)

桶川市における下水道事業の現状

- ◆ 経験のある技術職員の退職に伴う技術継承の懸念や、専門的な技術職員の新規採用が困難な状況にあります。
- ◆ 昭和48年から現在までに整備された約243キロメートルの污水管と、9か所のポンプ場などの下水道施設では、老朽化が進み今後は大量に更新する時期を迎えることとなります。
- ◆ ウォーターPPPの導入予定 ➡ **令和11年4月に事業開始**を目指しています。

導入した場合の費用対効果

これまで個別に年度ごとに契約していた業務を、**一括して10年間の長期契約**となることで、導入した場合の方が、今後増加する事業費を抑えられる効果があります。

▶ 道路陥没事故の教訓を踏まえると、「インフラを安全に維持するためのパートナーシップ」が求められています。

安心できるまちづくり活動報告

地域の交通安全と防犯対策

道路拡幅に伴い、交通量の増加が見込まれる市道に、地域の安全対策としてカーブミラーと防犯灯を設置していただきました。

事故防止と夜間の防犯性向上に役立ちますが、カーブミラーには死角があるため、今後も必ず目視で安全確認をして通行してください。

